

富山県高岡市

# 西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報 I



1984年3月

高岡市教育委員会

## 発刊にあたって

埋蔵文化財の保護のために大切なことは、どこに、どのような遺跡があるかを、しっかり把握し、その周知の徹底をはかることです。高岡市の西山丘陵は、「遺跡の宝庫」といわれ、多数の遺跡が確認されています。しかし、未確認の遺跡も相当多く存在すると予想されます。

以上のことから、本市は、西山丘陵の遺跡の所在分布について、5ヶ年計画で調査を実施することになりました。本年度は、5ヶ年計画の初年度であり、不備な点もあります。今後、本報告書が貴重な埋蔵文化財の保護の助けと、研究の基礎資料として広く活用されることを期待します。

おわりに、調査の実施にあたり、御協力をいただいた地元の方々、関係各位に感謝申し上げます。

昭和59年3月 高岡市教育委員会

## 目次

発刊にあたって

例言

I はじめに	1
第1図	1
II 調査の概要	2
III 調査の結果	2
第一表(古墳計測表)	3

写真図版

付録

大字小学区分図及び遺跡分布図



## 例言

1. 本書は、富山県高岡市西山丘陵の埋蔵文化財分布調査概要である。調査は、昭和58年12月、昭和59年1月・3月の各時期に行なった。
2. 調査は、昭和58年度国庫補助金の交付を受けて、高岡市教育委員会が実施した。
3. 調査参加者(敬称略)  
調査指導 富山考古学会会員 小島俊彰・西井龍儀  
調査担当 高岡市教育委員会社会教育課主事 大野文郷・逸見 護  
調査補助 富山考古学会会員 田知健二・柴 一良・大野一成・坂田悦康・片境夢男  
資料整理 柴 佳代子・守護晴津子
4. 本書作成のため、小島俊彰氏、西井龍儀氏の指導及び貴重な資料の提供を賜ったのを始め、富山考古学会会員、酒井重洋氏からも助言をいただいた。ここに感謝申し上げます。
5. 本書編集・執筆 大野文郷・逸見 護

## I. はじめに

西山地区は、高岡市街より西方約10kmの二上断層丘陵に属し、面積は約60km<sup>2</sup>である。山裾には小矢部川が流れ、その左岸はかつて氾濫原や遊水地であり、現在は河川改修により肥沃な農地となっている。当地区の丘陵地には多くの古墳群、山腹には数多い横穴墓群があり、その谷間や段丘面にも各々集落遺跡を含む。この西山地区一帯は埋蔵文化財包蔵地であるが、近年、宅地化や上取作業等の開発が進んでいる地域である。

### 目的と方法

西山地区は、工事や開発に伴う調査、富山県考古学会員の献身的な分布調査によって、未知の遺跡が次々に発見され、埋蔵文化財の宝庫となっている。また、今日までの遺跡掌握の不備のため、行政面での対応も不十分であった。

以上のことから、高岡市教育委員会は西山地区の埋蔵文化財の分布を把握し、保護行政を円滑にし、市民の教育・文化活動に生かすべく、国庫補助を得て、昭和58年より5ヶ年で埋蔵文化財分布調査の実施を決定した。調査の実施は便宜上、主要道路で5地域に区分した。さらに各地域を小字単位の小地域に分け、踏査対象地域の目安とした。なお、簡単な墳丘測量を行なったが、踏査範囲を広げることに主眼をおいたため、トレンチやボーリング等による調査は将来に委ねた。(本年度調査区域は約10km<sup>2</sup>)

### 遺跡の保護

遺跡は、文字のない時代や不幸によって記録を消滅された人々の残した、大地に刻みこまれた文化遺産である。遺跡は風化という限界をもつが、他の文化遺産に比べて、時間をこえた独自の価値をもつ。このような文化価値をもつ遺跡の多くが、開発によって消滅したことに留意し、遠い祖先が残してくれた文化財を後世に伝えるために、自然環境と一体となった遺跡の保護活用が必要である。特に遺跡包蔵地の所有者や市民の理解と協力が不可欠である。



- |            |                 |               |                |
|------------|-----------------|---------------|----------------|
| 1. 桜谷古墳群   | 11. 谷内古墳群       | 21. 頭川城ヶ平横穴墓群 | 31. タチ山古墳      |
| 2. 岩崎古墳群   | 12. 二上横穴墓群      | 22. 頭川遺跡      | 32. 月野谷遺跡      |
| 3. 国分山古墳群  | 13. 二上古墳群       | 23. 頭川オスキノ原遺跡 | 33. 江道横穴墓群     |
| 4. 御幸角遺跡   | 14. 東海老坂タイラ山古墳群 | 24. 頭川古墓群     | 34. 籠谷口遺跡      |
| 5. 矢田窪古墳群  | 15. 東海老坂ムカイ山古墳群 | 25. 安橋山古墳群    | 35. 柴野古墳群      |
| 6. 上野古墳群   | 16. 西海老坂小田谷内古墳群 | 26. 四十九古墳群    | 36. 兼生谷テラジト古墳群 |
| 7. A城光寺古墳群 | 17. 須田不動谷内古墳群   | 27. ドウガヤチ古墳群  | 37. 石境浅井神社古墳群  |
| 8. 寺山古墳群   | 18. 五十里古墳群      | 28. 月野大谷内遺跡   | 38. 勝木原遺跡      |
| 9. 院内古墳群   | 19. 板屋1号墳       | 29. 月野谷石飛遺跡   |                |
| 10. 鳥越古墳群  | 20. 板屋谷内古墳群     | 30. 大寺古墳群     |                |

## II. 調査の概要

調査は、高岡市教育委員会が主体となり、社会教育課が実施した。市内の西山丘陵を5区域に分け、東は国道160号線、西は県道高岡・氷見線、北は市境、南は小矢部までの範囲を、今年度の調査対象区域とした。

調査の方法は、踏査を中心としたものであり、写真撮影と簡単な計測を実施した。しかし、発掘はおこなっておらず明確でない点もあり、遺跡として認めうるか検討を要するものもある。また、積雪が多かったため、形態や規模を誤認する可能性も大きい。今後、継続的な補充踏査が必要とされる。

## III. 調査の結果

既に、富山考古学会の西井龍儀氏により、西山丘陵の古墳群の所在が指摘されていたが、今回は、その確認調査の結果と新に発見されたその他の古墳・遺跡等について概説する。(番号は地図番号と一致)

### 1. 西海老坂小田谷内古墳群

国道160号線の西側にあり、南の谷部からの眺望が良く、標高60~65mの北東から南西に向く尾根に、6基の古墳が並ぶ。4基は方墳で、2基は円墳である。階段状に形成され、古墳の形式も古い。近くに神明社がある。

### 2. 須田不動谷内古墳群

主要地方道小矢部伏木港線に沿って、南に視界の開けた支陵にある。標高60~67m程の尾根上に、5基の古墳が並び、2基の円墳と1基の方墳を確認するが、他は不明である。テラスが付く古い時代の特徴を示す。須田神社に近い。

### 3. 五十里古墳

2から北西250mの尾根にあり、四方へ支陵が延びる基幹点である。標高約102mに、大型の前方後円墳と階梯的な円墳がある。前方後円墳は、立地状況と規模から見て、1・2古墳群の盟主墳と推定される。

### 4. 五十里道神社古墳群

県道五十里・氷見線の北にあり、南東に視界の開ける地で、標高40~50mの支陵斜面に、北西から南東へ4基の円墳がある。斜面の自然溜落等により、形状は不明瞭である。道神社の裏山にあたる。

### 5. 板屋谷内A古墳群

主要地方道小矢部伏木港線に沿う支陵の先端に位置する。ほぼ西から東に向く標高30~50mの尾根上に、5基の古墳がある。大型の前方後円墳1基・大型の円墳2基・小円墳2基がある。東端に、板屋神明社がある。

### 6. 板屋谷内B古墳群

板屋谷内A古墳群に続いて、西へ延びる標高60~66mの尾根上に15基の古墳がある。東側に方墳5基、中央に円墳1基、方墳2基・西側に円墳7基が直列に並ぶ。ふもとに板屋の村落が見渡せる。

### 7. 板屋谷内C古墳群

板屋谷内B古墳群からさらに南西へ80m程に、標高60mの尾根上に円墳3基がある。そこから南へ張り出た支陵中腹に、方墳1基と小円墳1基がある。方墳の整形は明確で、平野部への視界は広い。

### 8. 板屋谷内D古墳群

板屋谷内C古墳群から約180m西、標高100mの尾根に円墳1基があり、その南東へ延びる支陵の中腹標高約70mの地に円墳がある。

9. 物部古墳 東海老坂字魚ヶ谷内の、標高約50mの東西に向く尾根中腹にある前方後円墳。

10. 西海老坂岸ヶ谷内古墳群 物部古墳から南西約100mで、標高60~80m程の東西に向く尾根中腹に、円墳9基。

11. 五十里殿谷内古墳 五十里古墳から約170m西の標高80mの尾根にある円墳。三方へ支陵が延びる基幹点。

その他、城郭跡や貯蔵穴と推定されるものが、須田不動谷内古墳群の北西120m程の標高75~95mの地にある。

古 墳 群	現										計		
	10 未満	2 (同)	2 (同)		4	2	2 (同)	1				8	2
10   19	2		1		2	7 (方2)	1	2		1		16	
20   29	2				1	7 (方5)	2 (方1)		1			13	
模 (長径)	30   39												
	40 以上			1 (前方後円)		1 (前方後方)					1	3	
単 位 m	不明		3 (方1)									3	
	計	6	5	2	4	6	16	4	2	1	9	3	58
墳 形	円	2	3		4	4	9	3	2		9	3	39
	方	4	2	1		1	7	1					16
	前後 方円 意			1		1				1			3
	不明												
備 考		2墳は 盗掘跡 あり	主墳に 盗掘跡 あり					1墳は 盗掘跡 あり			主墳に 盗掘跡 あり		



西海老坂小田谷内古墳群



須田不動谷内古墳群



五十里古墳



五十里古墳を含む遠景



板屋谷内A古墳群



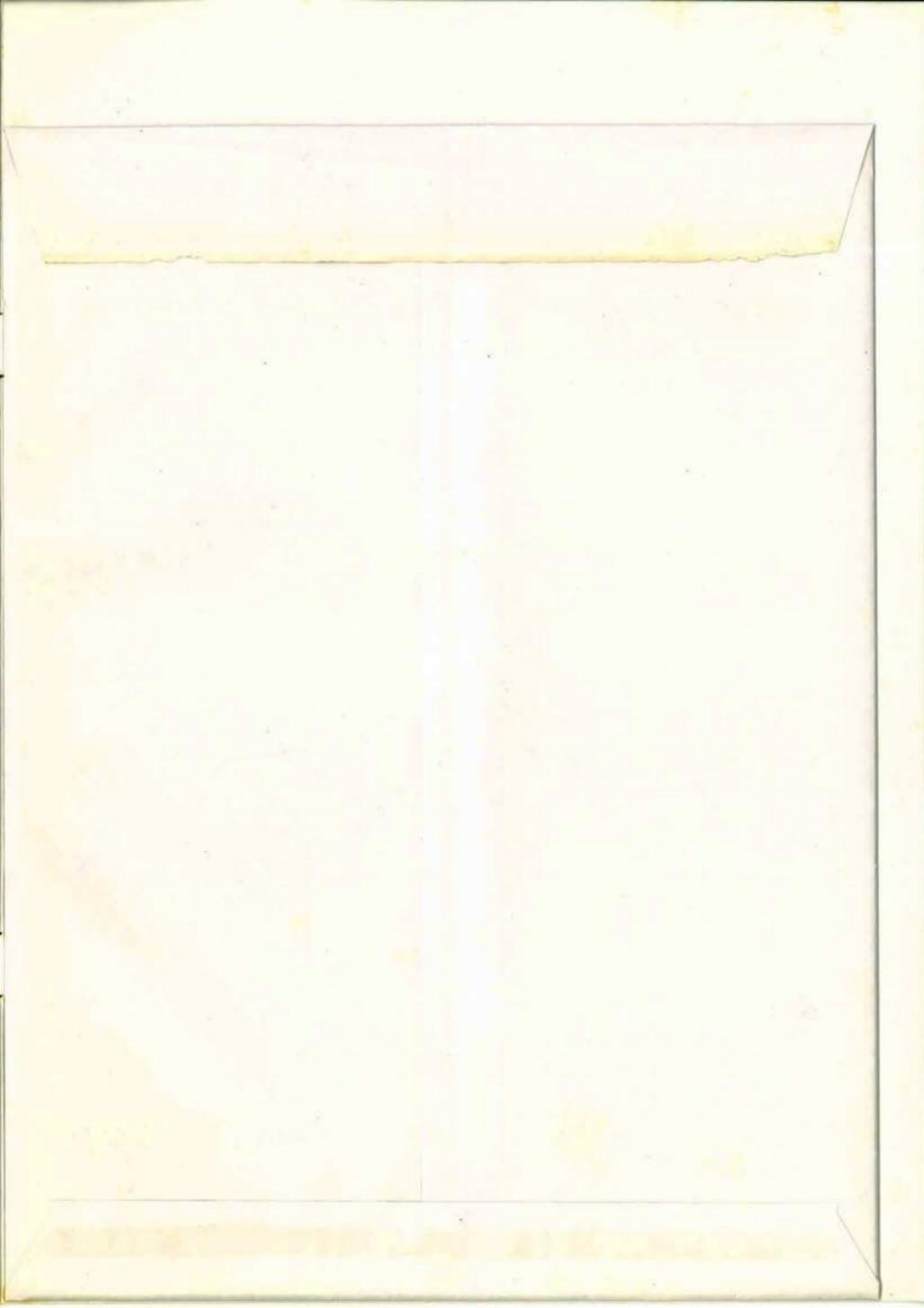
板屋谷内C古墳群



板屋谷内B古墳群



板屋谷内D古墳群



大字 A. 東海老坂  
小字

1. 石原谷上
2. 水清谷内
3. 穴清水内
4. 魚谷内
5. 萩田谷内
6. 三味田
7. 峠川
8. 川大
9. 大

B. 西海老坂

1. 赤畑峠
2. 丈大坂
3. 桂ヶ谷内
4. 月ヶ谷内
5. 立尾内
6. 横谷
7. 横谷
8. 横谷
9. 横谷
10. 横谷
11. 横谷
12. 横谷
13. 横谷
14. 横谷
15. 横谷
16. 横谷
17. 横谷
18. 横谷
19. 横谷
20. 横谷
21. 横谷

C. 須田

1. 不動谷内
2. 不動谷内
3. 不動谷内
4. 不動谷内
5. 不動谷内
6. 不動谷内
7. 不動谷内
8. 不動谷内
9. 不動谷内
10. 不動谷内
11. 不動谷内

D. 五十里

1. 橋ヶ谷
2. 橋ヶ谷
3. 橋ヶ谷
4. 橋ヶ谷
5. 橋ヶ谷
6. 橋ヶ谷
7. 橋ヶ谷
8. 橋ヶ谷
9. 橋ヶ谷
10. 橋ヶ谷
11. 橋ヶ谷

E. 岩坪

1. 奥山
2. 奥山
3. 奥山
4. 奥山
5. 奥山
6. 奥山

F. 頭川

1. 代割山
2. 押木
3. 九木
4. 橋ヶ
5. 城ヶ
6. 城ヶ

G. 長慶寺

1. 殿引
2. 殿引
3. 殿引
4. 殿引
5. 殿引
6. 殿引
7. 殿引
8. 殿引
9. 殿引
10. 殿引
11. 殿引

H. 百橋

1. 谷内
2. 谷内
3. 谷内
4. 谷内
5. 谷内
6. 谷内
7. 谷内
8. 谷内
9. 谷内
10. 谷内
11. 谷内

I. 守山

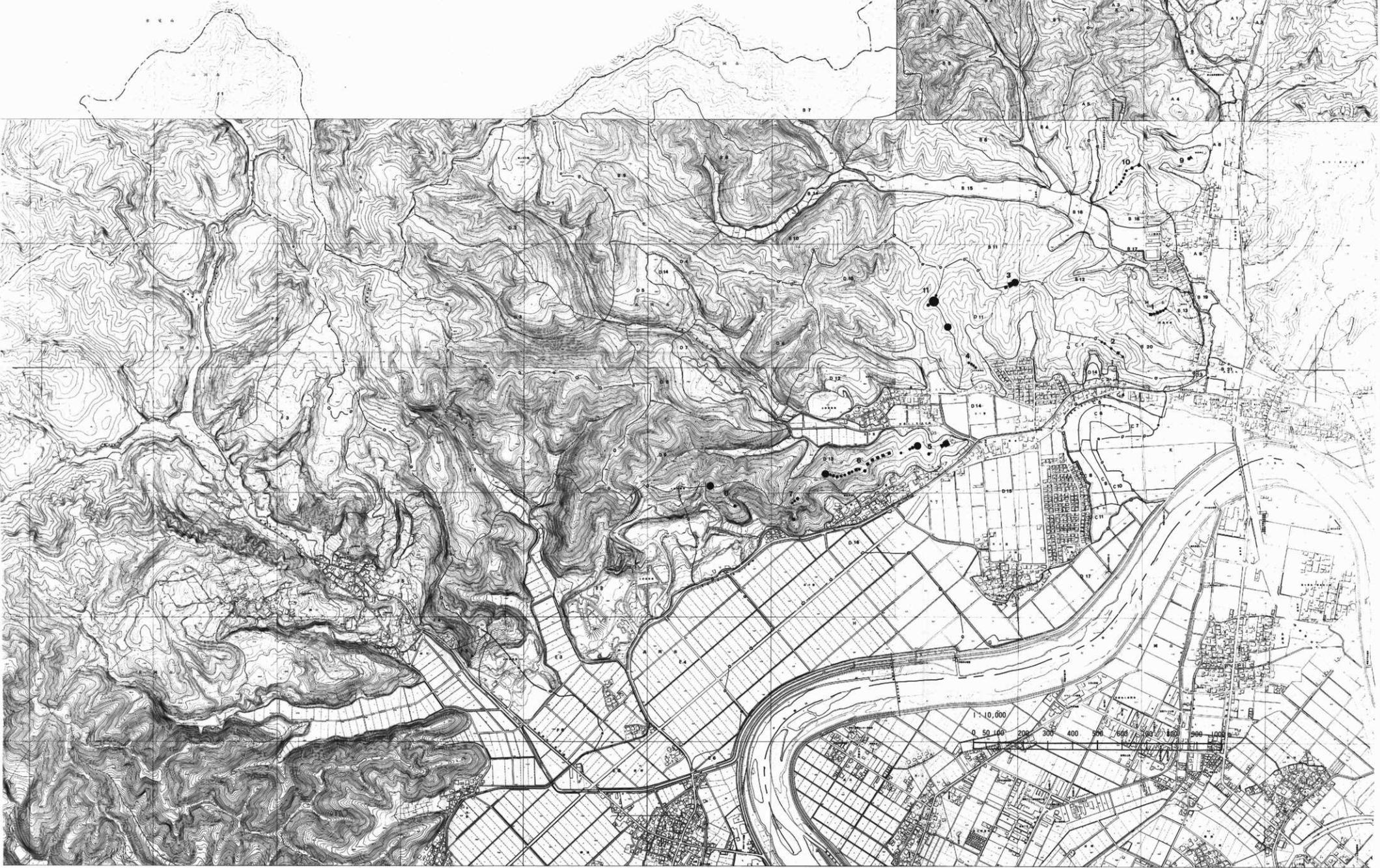
1. 長江
2. 長江
3. 長江
4. 長江
5. 長江
6. 長江
7. 長江
8. 長江
9. 長江
10. 長江
11. 長江

J. 新

1. 新
2. 新
3. 新
4. 新
5. 新
6. 新
7. 新
8. 新
9. 新
10. 新
11. 新

K. 新

1. 新
2. 新
3. 新
4. 新
5. 新
6. 新
7. 新
8. 新
9. 新
10. 新
11. 新



- |                |                 |         |
|----------------|-----------------|---------|
| 1. 西海老坂小田谷内古墳群 | 7. 板屋谷内C古墳群     | ● 円墳    |
| 2. 須田不動谷内古墳群   | 8. 板屋谷内D古墳群     | ■ 方墳    |
| 3. 五十里古墳群      | 9. 物部古墳         | ◼ 前方後方墳 |
| 4. 五十里道神社古墳群   | 10. 西海老坂岸ヶ谷内古墳群 | ● 前方後円墳 |
| 5. 板屋谷内A古墳群    | 11. 五十里殿ヶ谷内古墳群  | ▲ 横穴墓   |
| 6. 板屋谷内B古墳群    |                 |         |

富山県高岡市

西山地区埋蔵文化財  
分布調査概報No. 1

発行日 昭和59年3月31日

発行者 高岡市教育委員会

編集者 同上

印刷者 小間印刷株式会社